

平成 30(2018)年さけます来遊状況(第 6 報:1/31 現在)

3 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構

北海道区水産研究所 さけます生産技術部

- 1 月末時点での年齢別来遊数を推定すると、全国、北海道、本州において、4 年魚（2014 年級）が全体の 8 割程度を占め、5 年魚（2013 年級）の少なさが顕著
- 北海道の 2013 年級の 5 年魚までの来遊数は 1992 年級以降一番少ない
- 北海道の沿岸漁獲の平均重量は 3.04kg で、1989 年以降で最も小さい水準

※以下文章中の平年は、平成 6（1994）～平成 29（2017）年の平均値を示す

・サケの年齢組成

（全国）

全国の主要な河川に回帰したサケの年齢査定をもとに、1 月末時点における年齢別来遊数を推定したところ、4 年魚（2014 年級）が全体の 80%を占めて最も多く、5 年魚（2013 年級）及び 3 年魚（2015 年級）がそれぞれ 13%、6%となっています。4 年魚の割合は 1994 年以降で一番高く、逆に 5 年魚の割合が一番低くなっています。4 年魚の来遊数は前年同期の 215%と前年を大きく上回っていますが、5 年魚は 58%と大きく減少しています。平年同期との比較では、それぞれ 75%と 18%となっており、4 年魚は 1994 年以降で少ない方から 7 番目ですが、5 年魚は一番少ない状況です。また、3 年魚は前年同期の 46%、平年同期の 51%となっており、1994 年以降では 3 番目に少なくなっています（図 1）。

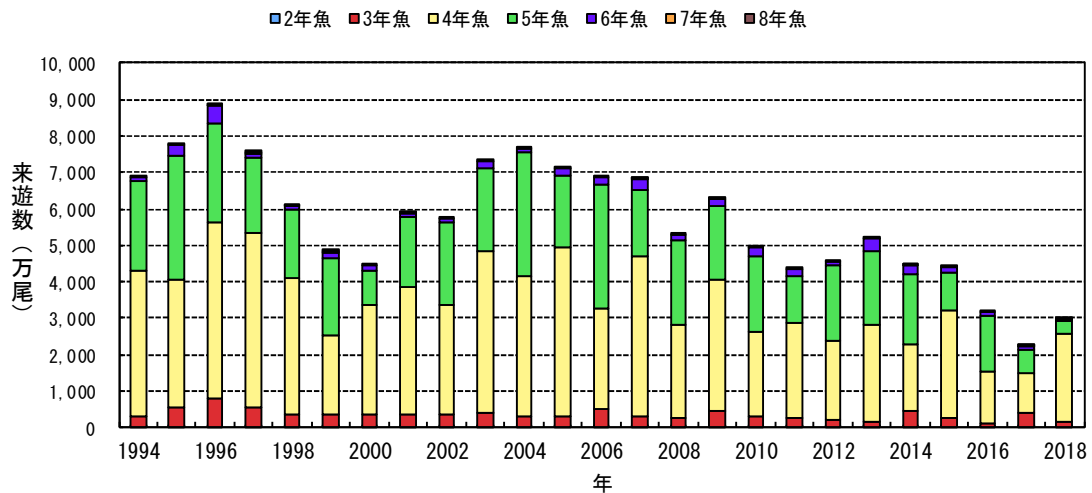


図 1. 1 月末時点のサケ年齢別来遊数（全国）.

(北海道)

4年魚(2014年級)が全体の80%を占めて最も多く、5年魚(2013年級)及び3年魚(2015年級)がそれぞれ12%、7%を占めました。4年魚の来遊数は前年同期の225%と前年を大きく上回りましたが、5年魚は51%と大きく減少しました。平年同期との比較では、それぞれ76%と16%となっており、4年魚は1994年以降で少ない方から6番目ですが、5年魚は一番少なくなりました。また、3年魚は前年同期の56%、平年同期の73%となっており、1994年以降では5番目に少なくなりました(図2)。

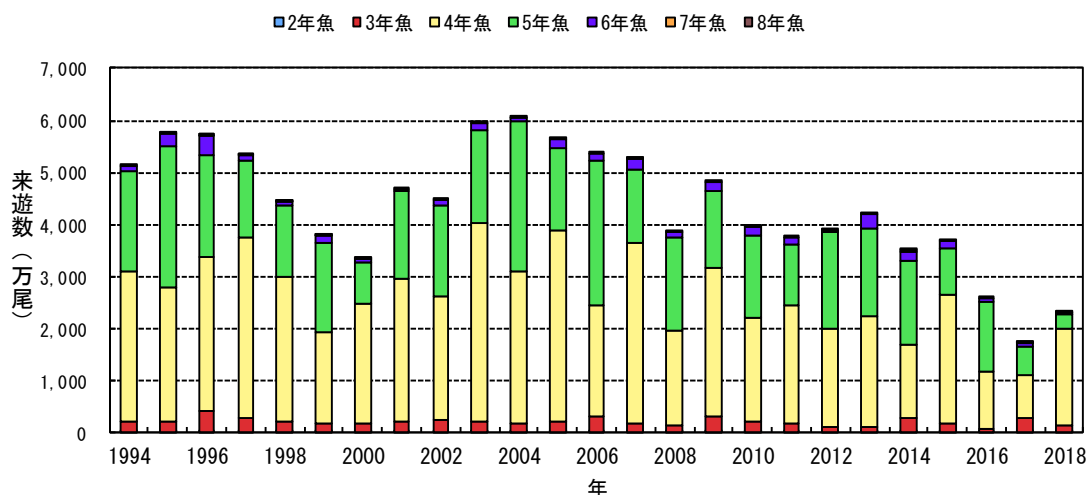


図2. 1月末時点のサケ年齢別来遊数(北海道).

年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の5年魚である2013年級は、5年魚までの来遊数(2~5年魚の来遊数)で比べた場合、1992年級以降の平均の27%と、1992年級以降で一番少なくなりました。一方、4年魚である2014年級は4年魚までの来遊数(2~4年魚の来遊数)で比べた場合、1992年級以降の平均の82%の水準で、少ない方から7番目となりました(図3)。

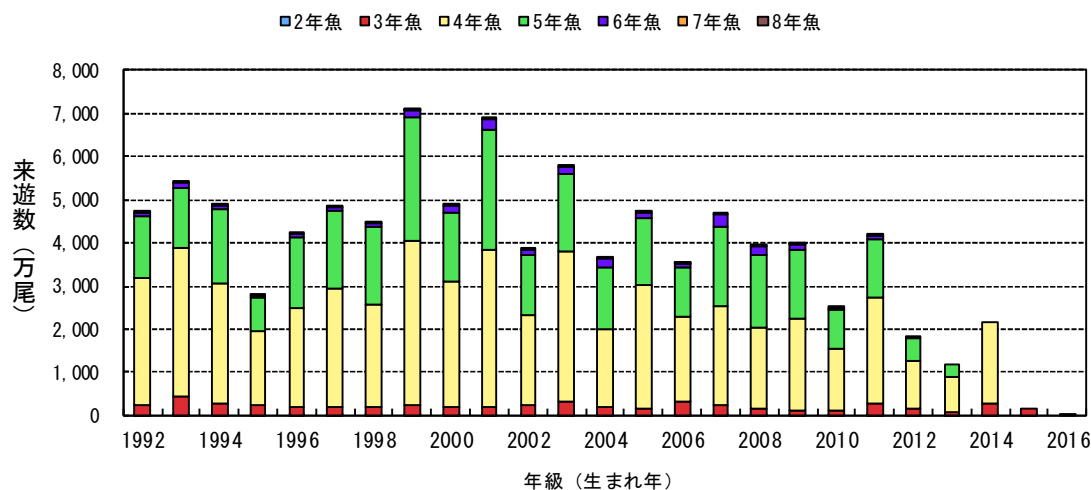


図3. 1月末時点のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(北海道).

地域別にみると、太平洋側（根室～えりも以西海区）では、4年魚が全体の81%を占め、5年魚の割合は9%にとどまり、3年魚の割合は8%となりました。4年魚は前年同期の354%、平年同期の59%と前年を上回りましたが、5年魚は前年同期の50%、平年同期の10%にとどまりました。1994年以降では4年魚は6番目に少なく、5年魚は一番少なくなりました。なお、3年魚は前年同期の57%、平年同期の68%となり、1994年以降では6番目に少なくなりました（図4）。

日本海側（オホーツク海区及び日本海区）では、4年魚が全体の79%を占め、5年魚の割合は14%、3年魚の割合は6%となりました。4年魚は前年同期の177%、平年同期の98%と前年を上回りましたが、5年魚は前年同期の51%、平年同期の24%にとどまりました。1994年以降では、4年魚は少ない方から10番目と平年並みでしたが、5年魚は一番少なくなりました。また、3年魚は前年同期の54%、平年同期の79%と1994年以降では10番目に少なくなりました（図5）。

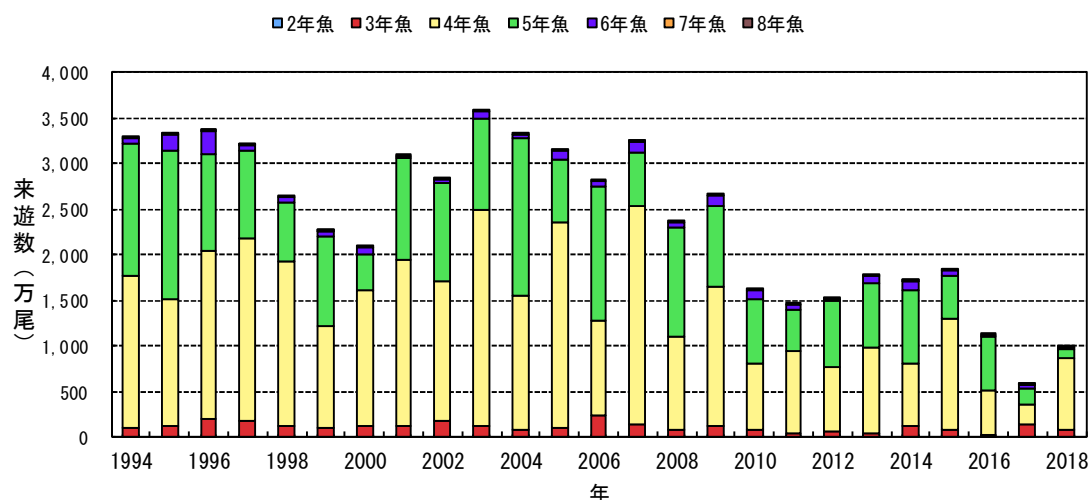


図4. 1月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

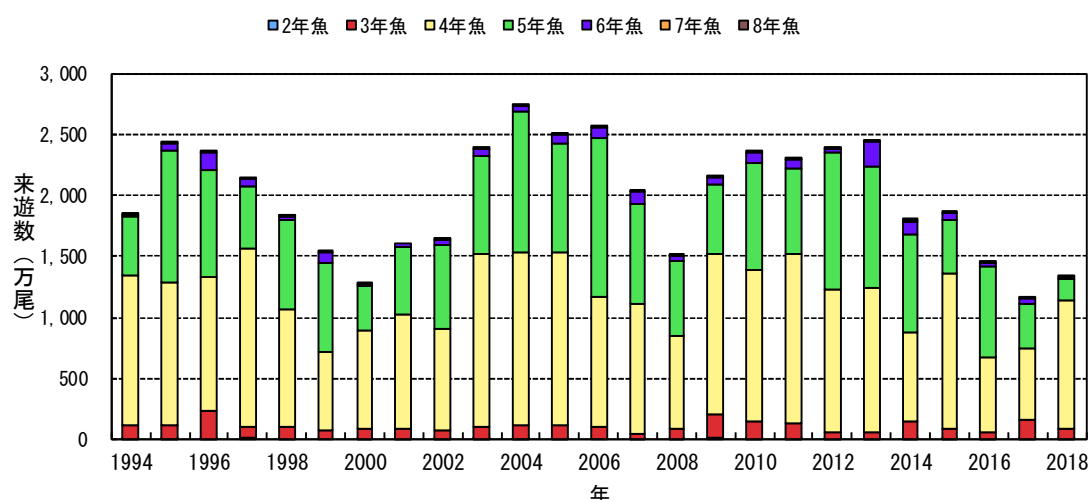


図5. 1月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

(本州)

本州太平洋側では、4年魚（2014年級）が全体の80%を占めて最も多く、5年魚（2013年級）及び3年魚（2015年級）がそれぞれ16%、3%を占めています。4年魚の来遊数は前年同期の195%と前年を大きく上回っていますが、5年魚は90%と減少しています。平年同期との比較では、それぞれ71%と24%となっており、4年魚は1994年以降で少ない方から9番目ですが、5年魚は一番少ない状況です。また、3年魚は前年同期の19%、平年同期の14%となっており、1994年以降では一番少なくなっています（図6）。

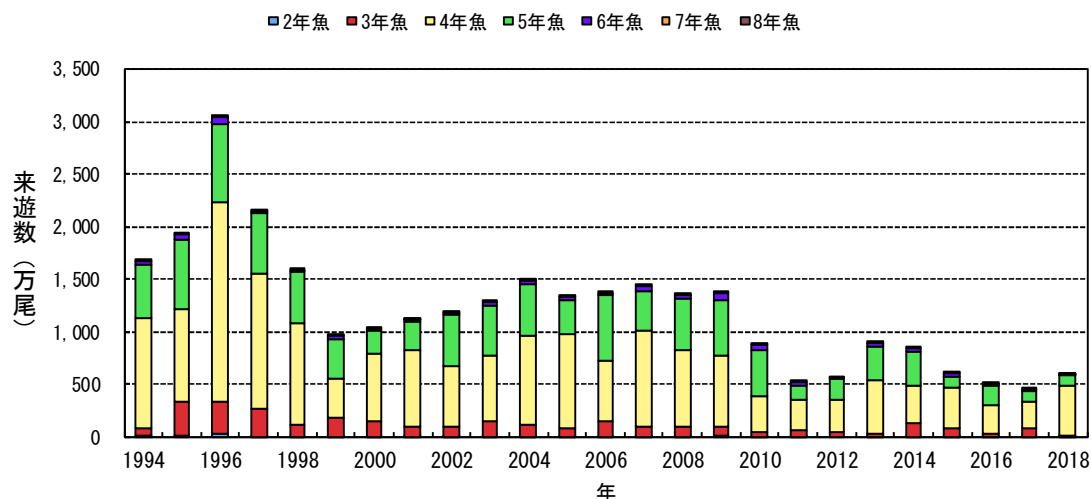


図6. 1月末時点のサケ年齢別来遊数（本州太平洋）。

本州日本海側では、4年魚（2014年級）が全体の75%を占めて最も多く、5年魚（2013年級）及び3年魚（2015年級）がそれぞれ18%、6%を占めています。4年魚の来遊数は前年同期の117%、5年魚は166%と前年を上回っています。平年同期との比較では、それぞれ95%と69%となっており、4年魚は平年並み、5年魚は1994年以降で少ない方から6番目となっています。また、3年魚は前年同期の17%、平年同期の25%となっており、1994年以降では一番少なくなっています（図7）。

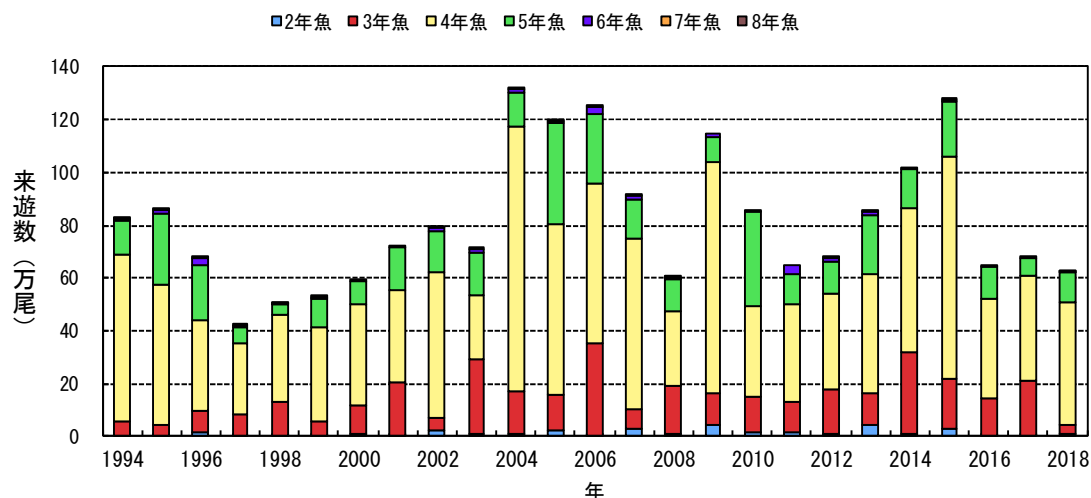


図7. 1月末時点のサケ年齢別来遊数（本州日本海）。

・サケの体サイズ

北海道における1月31日現在のサケ1尾当たりの平均重量（サケ漁獲数と漁獲重量から算出）は3.04kgであり、前年同期（3.43kg）の89%と大幅に減少しました。これは、1989年以降で最も小さかった1994年（3.01kg）と同じ水準です（図8）。

北海道の主要河川に回帰したサケ4年魚の平均尾叉長は、前年に比べ1～3cm小さくなり、近年では2012年に次ぐ小ささとなりました（図9）。

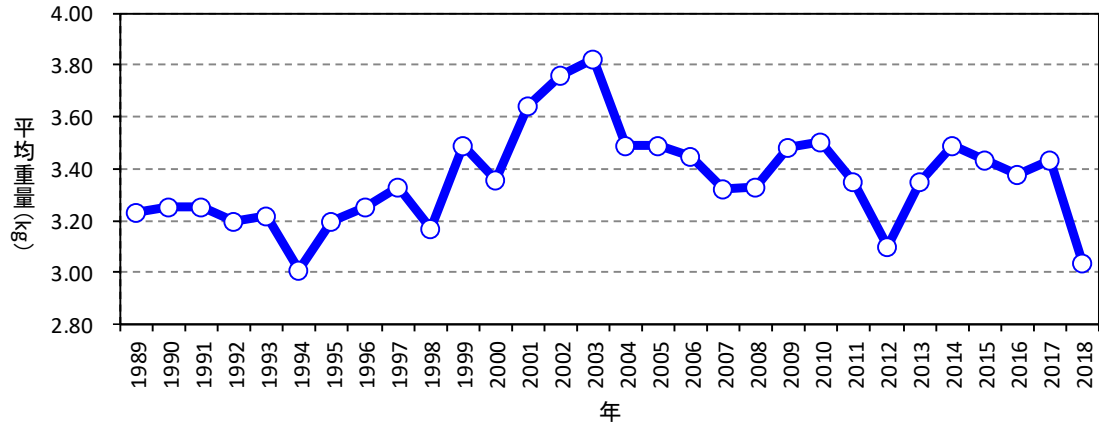


図8. 1月末時点のサケ平均重量（北海道）.

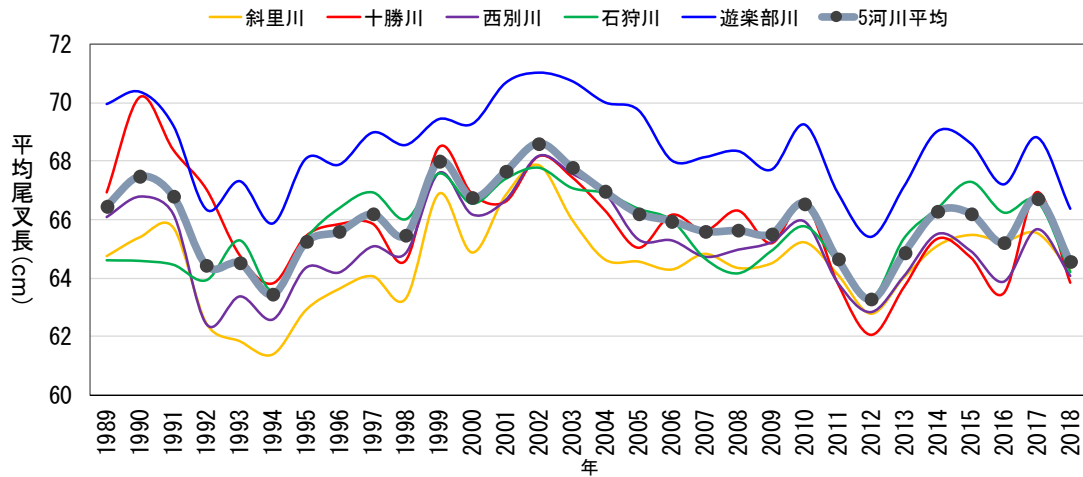


図9. 北海道の主要河川におけるサケ4年魚（雌雄込み）の平均尾叉長.